



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施

【概要】

令和4年5月20日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科(理工系)の大学院生らが本年度最初の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行っています。大学が不登校支援機関に対して行う理科実験教室は、全国でも数少ない活動で、平成17年に当時の工学系研究科 児玉 浩明 教授(現佐賀大学長)が始めてから現在まで継続しており、今年で18年目にあたります。

令和4年5月20日(金)に先進健康科学研究科(理工系)の大学院生が理工学部化学部門 長田 聡史 教授とともに、「おもしろスライムを作ろう」と題して、今年度はじめての理科実験教室を行いました。

毎年初回は子どもたちに人気のスライムを題材としていますが、今年は、スライムを作成するときにシェービングフォームやグリセリンを混ぜた感触の異なるスライムを作ったり、鉄粉を混ぜたスライムで磁石に反応する様子を観察したりしました。生徒たちは、色素やラメで着色したオリジナルスライムの出来栄に歓声をあげていました。単に感触を楽しむだけでなく、スライムで作品を作ろうとする子もあり、ボランティアの学生とくすの実の指導員の先生たちは子供たちの独創的な発想に感嘆していました。この理科実験教室は今回を含め年6回の開催を予定しています。



「理科実験教室」の様子